

経営比較分析表（令和4年度決算）

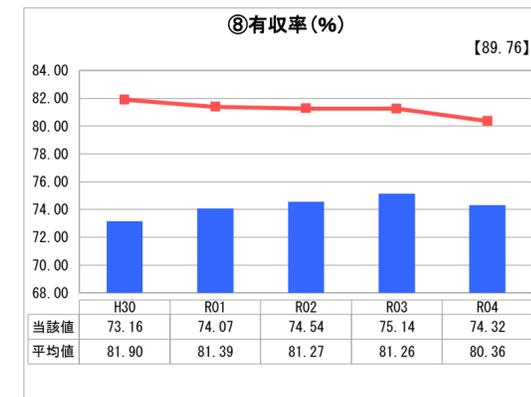
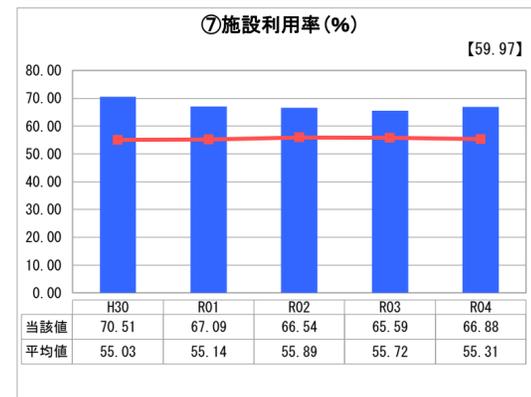
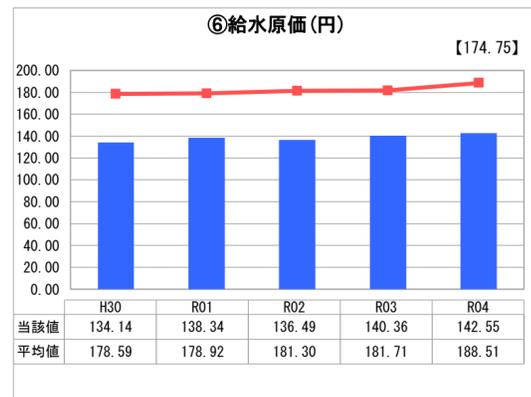
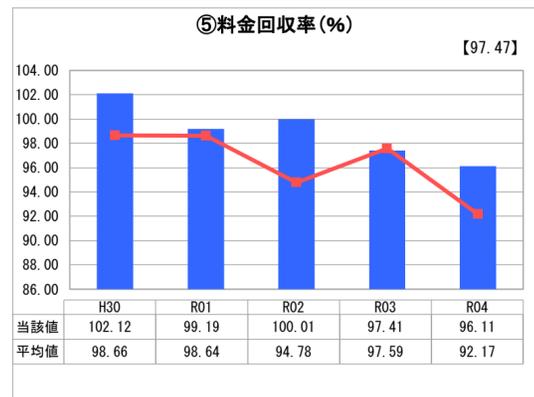
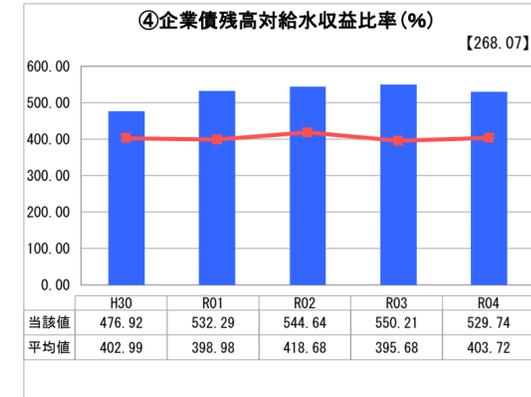
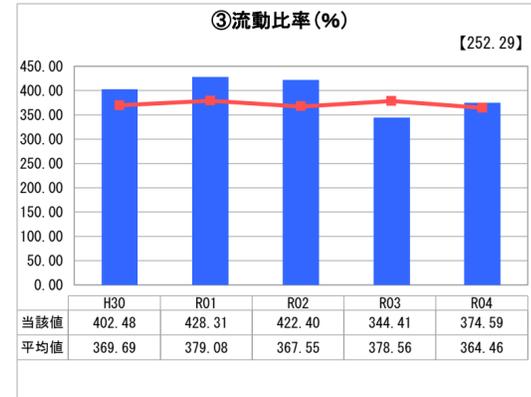
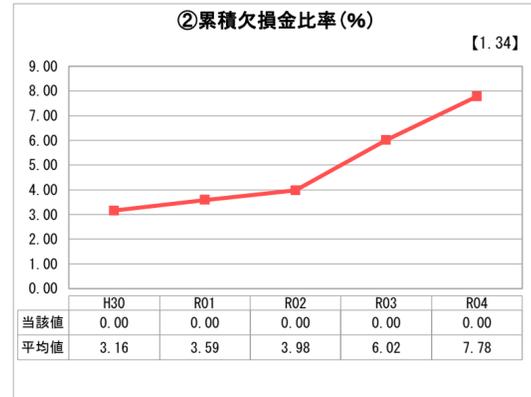
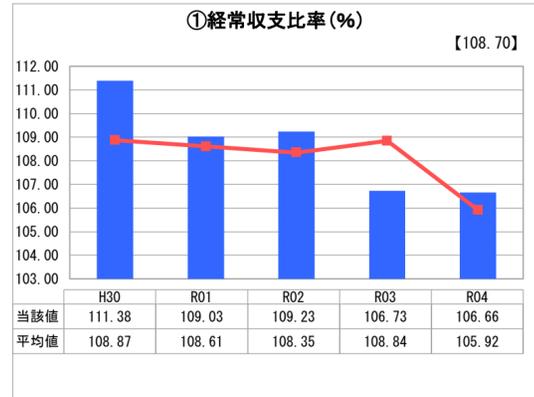
熊本県 阿蘇市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	69.44	82.61	2,629	

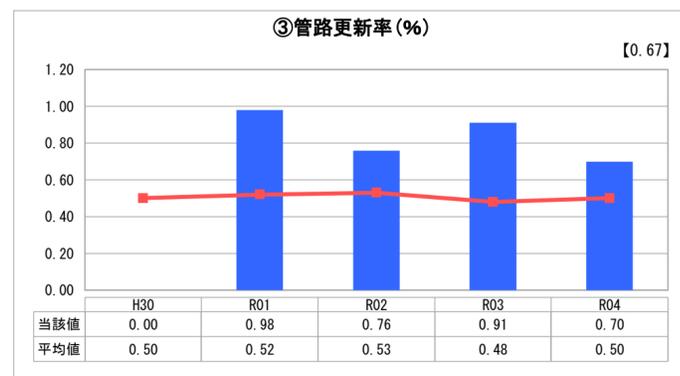
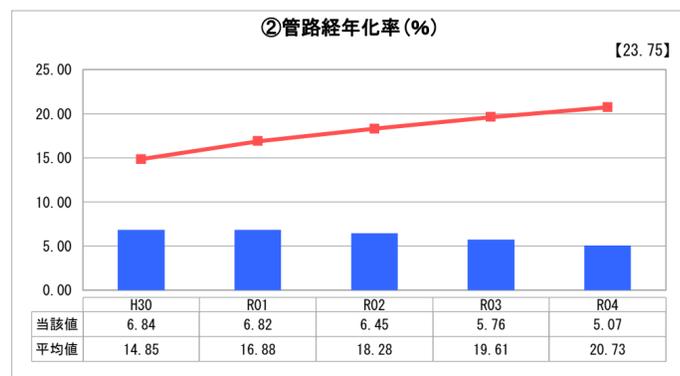
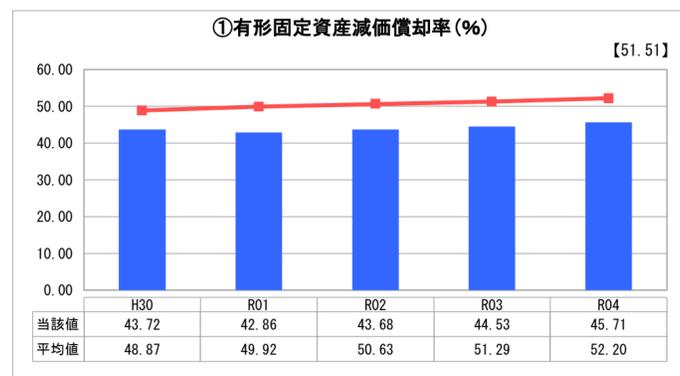
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
24,751	376.30	65.77
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
20,410	191.72	106.46

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【	令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①、② 経常収支比率は100%を上回っており、累積欠損金もなく、現時点において経営は順調に推移しているが、今後は水道料金収入の低下も見込まれ、更なる経費削減を行い経営の効率化を図っていく必要がある。

③ 流動比率は、類似団体平均値よりも高く、100%を上回っており、短期債務に対する支払い能力は十分である。

④ 企業債残高対給水収益比率は、これまで施設整備や更新を企業債を主な財源として実施してきたことにより、類似団体よりも高い水準で推移している。この比率を減少させていくことが、中長期的な課題である。

⑤ 料金回収率は100%を下回っており、減少傾向にあることから、更なる滞納整理の強化を図り財源確保に努める。

⑥ 給水原価は、豊富な地下水資源を有しており、費用削減にも努めていることから類似団体を下回っている。

⑦ 施設利用率は、適正規模での運用により概ね良好と捉えているが、将来の水需要の減少を考慮し施設規模の適正化を図るための検討を行う。

⑧ 有収率は、計画的に管路更新や漏水調査などを行っているが、類似団体の平均を下回っているため、更なる漏水対策に努める必要がある。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率は、類似団体平均値を下回ってはいるものの、資産の老朽化は低位に推移する有収率にも影響を及ぼしている。耐震化対策等を含めた長寿命計画を進めながら、将来の施設更新費用の確保に向けた取り組みも併せて行っていく必要がある。

②③ 管路経年率及び管路更新率は、計画的な管路更新を実施してきたことにより、類似団体平均値より良好な状況にある。しかし、管路の老朽化に起因する漏水は多発しているため、今後も修繕が頻発する管路を優先して更新するなど、限られた予算を効率的に活用しながら事業を進めていかなければならない。

全体総括

当年度においては、経常収支比率・流動比率共に健全な経営水準を維持できているが、人口減少等による水道使用料収入の減少や、老朽化に伴う大規模な施設の改修、更には多額の企業債返済等、将来に及ぶ多くの課題を抱えており、今後の経営は厳しさを増すことが予測される。

ついでに、策定済のアセットマネジメント及び経営戦略に基づいた事業推進、また料金改定に取り組むことにより、経営基盤の改善と安定化を図る必要がある。

また、高騰する動力費への対策や、修繕費等に係る経常コストの節減、漏水調査及び施設の効率的な稼働体制を確保すること等により、有収率率の向上にも努めなければならない。